



日本産小淡水魚の

観賞とその飼ひかた

清水 良雄

近來熱帯魚の観賞は、なか／＼盛になつて來たやうです。が日本産のものは一向にかへり見られないやうです。勿論珍らしいものの好きの流行性がその原因でしやうが、一つには日本産のものは死に易くつて飼へないものだと思ひ込んでる人達も多いやうです。一つはそのまゝ飼へるやうにして賣つてゐるし、一つは、川なり池なりから捕つて來て飼ひ馴さなければならぬ、こいふところが手を出させないのでしやう。實はこんな了見では、どんな魚だつて——飼ひ馴らされてる熱帯魚だつて——二ヶ月さへも生かして置く事は出来ません。

魚を飼つて観賞するこいふ心理が第一の問題です。魚が好きで／＼、可愛くつて可愛くつて、川や池で只見てゐる

だけではさうしても物足りないこいふ人でなければ飼つて見ても意味がないのです。飽きて了へば餌もやらなければ、水も取り換へないこいふのではほんまに可哀さうです。あんな罪もないきれいな可愛いゝ小動物を殺して了つては、ほんまに申譯のない、可哀さうな話です。それは吾吾もても自然のまゝに、野の花は野に、お魚は川に、在るがまゝに任かして置く事がいゝ事である事は、よく知つてゐます、然しそこが人間の淺間しさでもいひまじやうか、可愛さが餘るこつひ自分の身近かに置いて見たくなるのです、私がこゝで小動物に對する愛を力説しても、この矛盾だけは神さにも小動物達にもお許を願つて置く事に致しませう。まあ、さうでもしなければ人間の生活があま

りにも、潤のない、日常になつてしまひます、猫額大の庭にも草花を植ゑる事も出来ないし、小鳥の一羽も軒につるす事も出来なくなつてしまひます。

人間の得手勝手な理窟をいはせていたゞくなら、さうした事から、少しでも自然に生活してゐるお魚や、蟲けらと仲よくなつて——或は觀察する事によつて、同じ生物である人間だけが餘りにも思ひあがらぬやうな、さうした、反省の心を見つめる事も、日に一度位はあつても、いゝのぢやないでしやうか。科學さいつても自然の本當の姿を見極める事です。神様の目から見れば人間も亦自然にゐる蟲けら達の親類にしか過ぎないのですもの。

さて、前おきが長くなりましたが、私は子供の時から動物が、ほんまにく〜好きだつたのです、それ等に限りなき魅力を感じるんです。ですから今迄に自分の愛してゐるのは魚だけではありません。小鳥も(多く日本産の)植物も(多くは野生の樹木に山野の草類)身近に置いては日夜愛して來てゐます。ですから、庭なごは山野の草だらけです。

私がそれ等のものを身近かに置きこくのも、前にも申上

げた通り好きで可愛いくつて堪らぬ事から始まつてゐるのですから、總て自分の手元で殺すやうな事があつてはならぬさういふのが吾が家のモットーです。勿論、色々な原因で死んだり枯れたりする事はありますが、初めから死ぬ事が、わかり、枯れる事がわかつてゐるものは決して吾が家に持つて歸へらぬ事にしてゐます。だから私は、魚釣りそのものが目的であつたり、喰べる事の爲に澤山の魚を捕る事は大嫌ひです。鳥に對しても同じ事で鐵砲打ちは最も憎むところのものです。

魚を飼ふ事に就いても實はその方法は第二です。根本は「愛」です。人間の子供を育てるのミ全く同じ事です。愛があつて初めて適切な方法も考へ付くさういふわけです。魚でも鳥でもそれ自身が不幸では生かして置くわけには行かぬものです。凡てそれ等のものを出来るだけ幸福にしてやらなければ決して長生をするものではありません、鳥なんかにしても、鳥自身が幸福でなければ決して美しい羽色を保持する事も出来なければ朗かな鳴聲を張り上げるわけも無いのです。魚にしても同じ事です。小さな籠や狭いガラス

箱に入れて何が幸福かさいふ人もあるかも分りませんが、

それは想像以上に彼等は、その環境に馴れ易いものです。

そして人間程の記憶力もないと見えて、さ程に元の古巢を戀しがりもしないやうです。一年も飼つた小鳥は(野鳥)逃がしてやつても鳥に依つては二三日はさうしても吾が家から逃げて行かぬのがあります。

そんなわけで人間も魚にまつて同類であるやうに思はれて來るのせしやう。つまり、さうならねばならぬ様に人間が魚の身になつて、考へてやる事です。そうすれば魚の生活さいふものが段々理解出來て來るわけです。魚の生活が理解出來れば小さなガラス函の中で、さうすれば幸福で、さうすれば不幸か、位の事は自然わかつて來る理窟です。そこで初めて適切な方法が考へ浮んで來るさいふ順序です。

先づ飼ふのに適當な魚さいへば

一、見てゐて、美しい事。

一、さして美しくはないが興味ある生活状態である事。

一、比較的手に入り易い事。

一、相當丈夫である事。

一、餘り大きくない事。

見て美しいのには、ハヤ(本當の名前は、「おいかわ」さいふ)ですが關東地方では、やまべ(さいふ)タナゴ、なぎがあつて、殆ど全國どこにでもゐる魚です。生活状態に興味のある魚には、トウギョ、トゲウオなどでトウギョは口から出した泡を水面に集めて巢として、その中に産卵し、トゲウオは水藻の葉なごを集めて小鳥の巢のやうな指先きの巢を水中に造つてそのなかに産卵するのです。巢を造るのも卵及び幼魚を守護するのも、皆雄魚です。誠に見てゐて、このちいさな魚が、ミ涙ぐましい位の働きぶりです。その他俗にダボハゼさいいはれて少年達に親しまれてゐる小形のハゼもなかなか可愛いものです。メダカ、クチボソ、ホンバヤ、(關東で、かう呼ばれてゐますが、ウグヒの子供です)川エビ、手長エビ、なぎ淡水魚であれば大低のものは飼ひ得るし、又、いづれも、それ相等に面白さはあります。飼ひ方は、一尺五寸四方位の容積あるガラス函に砂を一寸餘り底に敷き——泥が混ざつてゐる水が濁るから、よ

く洗つて——それに何でもかまひませんから水草(睡蓮のやうなものでなしに藻の類)を植ゑてやるのです。萬事いかに魚が住みよさうにしてやる事が第一です。殊に捕つて來たての魚は特に魚を恐がらせたり、驚かせたりしないやうに、取り扱ひを靜かにして、いたはつてやる氣持が大事です。水はなるべく取り換へない事です。そして初めに前記の容器中茶サチ二三杯の鹽を溶かし入れておく事です。之は種々の寄生蟲なぎを、防ぐ爲めです、鹽は魚の大切な、お藥で、萬一魚の一部に、小さな白い、「カビ」の様なものが出來たら、魚を十四五分入れておいても死なない程度に濃い鹽水に一日一回入れてやります。

この「カビ」——白點病といひます。——様の病氣が一番かゝり易く又多くこの爲に死ぬんです。之さへ、防ぎ通してしまへば魚は、めつたに死ぬものではありません。

魚が水面上に口を出してバク／＼したり呼吸がせはしくなつたりした場合は水中の酸素の缺乏その他水の狀態が悪くなつた事を意味するのですから、その時に限り半分か全部を換へる事です。只原則としては水はなるべく取り換

へぬ方がいゝのです。

餌は金魚屋で賣つてゐる「ポッター」(玉のやうに固つてゐる細いミ、ヅです)が一番いゝのですが馴れて來ればビスケットなごも喰へるやうになります。只一回やれば皆な喰べきつてしまふ位にして必要以上に澤山やらぬ事です。喰べ残した餌が水中で腐敗して水を悪くするからです。一日一回午前中に投餌の事。

飼ひ方を委しくいへば際限がありませんが、前にも述べたやうに魚を愛する氣持さへあれば、あまは段々工風や時に應じての處置が解つて來ます。魚の健康狀態なごも一目でわかるやうになります。飼養法を知識として知らうと思はないで愛の心をもつて魚そのものを知らうとして下さい。魚を長く生かし、人に馴れさせるには之よりほかにはない事です。

それから前に書き忘れましたが魚は捕つて來る時に、「ケガ」をさせないやうに大事に捕へて來るのが重要な事です。そして入れ物に多數入れては、いけません先づ「バケツ」に五六匹が限度です、隨つてガラス器で飼ふ場合も前記の容積のものに二三匹(一寸前後のもの)といふところでしょう。